

平成 30 年 5 月 1 8 日

5 月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では好天に恵まれ、間伐材中心に順調な生産が続いている。入荷量は平年並み。原木の引合いはあるものの価格が弱含みで、先行き不透明感が一層強まっている。スギは 3m 柱材が保合、3.65m、4m 中目材は良材が強保合、並材は保合。ヒノキはまだまだ原木不足と見られ、4m 土台・中目材は引き続き高値維持であるが、3m 柱材は弱含み推移。例年より穿孔虫害が早く、工場は在庫用の手当はできなくなると思われる。

群馬県でも原木の出材は順調で集荷は容易。原木在庫は十分で土場は一杯の状況。原木価格も下落傾向にある。操業は順調で公共工事と一般物件が重なり、5 月末までの仕事は確保している。例年に比べ、プレカットからの引き合いの時期が早い。スギの 4m90 角、ヒノキの 4m90 角、4m105 角は相変わらずの品薄である。貫板、ラス下等は需要に一服感が見られる。ヒノキ製品価格(3m、4m)は原木価格と共に上昇している。

2. 米材

米加北西部の伐採は平年通り。米国では順調に在庫が積み上がっているが、カナダでは旺盛な国内需要のため依然在庫の積み上がりは見られず、米加間での温度差が続いている。ウェアハウザー社の 5 月積み対日価格(推定)は \$10 ダウンの \$1,030、ほぼ 2 年ぶりの値下げ。しかし米国製材品価格は史上最高値を更新中であり産地事情から下落の理由は見あたらない。DF 平角の競合品である RW 集成平角の価格上昇が見込めない中で昨今の円安を受け、日本の国内事情を配慮しての値下げ決着となった。ランダムレング紙 15 種平均価格(5/4)は \$525/M で 4 月頭に比べ 6.9%up。先月には一服感の出ていた価格も今月にかけて更に上昇する格好となった。

3 月の原木入荷量は 271 千 m³ と一転好調な入荷となる。1~3 月累計で 701 千 m³(前年同期比 1.9%減)、出荷量も 252 千 m³ で好調、1~3 月累計で 663 千 m³(同 7.0%減)、在庫は前月より 19 千 m³ 増の 236 千 m³ となり、在庫率は 1 ヶ月以上を維持。国内の米材製材工場は不需要期であるが、昨年末に欠品を起こした製品の在庫積み増しのため、フル操業。現地挽き入荷の少ない DF 小角は出荷が好調。4 月の東京木材埠頭の米材製材品入荷量は 16 千 m³(前月比

4.5%減)、出荷量は 22 千 m^3 (同 14.4%減)、在庫量は 40 千 m^3 (同 12.5%減)。今後の米加材の入荷は少ないことから更に不足感が出てくることが予想される。

3. 南洋材

サバでは天候が回復基調で伐採も正常化してきたが、輸出優先で国内工場に原木はそれほど回っていない。サラワクは厳しい伐採規制により原木在庫は多くない。原木輸出枠が 20%から 10%に削減される見通しである。インドネシアでも伐採は回復基調にあるが、原木不足の状況に変化はない。ソロモンは中国が牽引しており、日本・インド・ベトナムは PNG にシフトしている。5 月予想の原木入荷量は約 15 千 m^3 、出荷も 15 千 m^3 で横ばい、在庫は減少。3、4 月の製材品販売は好調であるが、フリー板は国内在庫が多く、若干調整中。

4. 北洋材

冬山伐採期の原木が減少、これから夏山に入ることでアカマツ良材原木の不足が予想される。原木産地価格はアカマツ\$190 前後で高値貼り付き、カラマツは\$180 前後で更に強含み。現地挽き完成品、原板とも品不足で強含み。日本バイヤーからのアカマツ野縁製品に対する引合いは強いが、原木不足から現地オファー自体も少ない。価格も\$510 を超える勢い。5 月予想の原木入荷は 11 千 m^3 、出荷 8 千 m^3 、在庫 20 千 m^3 、製品入荷(東京+川崎)は 18 千 m^3 、出荷 18 千 m^3 、在庫 35 千 m^3 。現地挽き完成品の値上げに対する日本側の抵抗は強い。

5. 合板

国産材はスギの需給バランスは取れているが、カラマツは不足気味で価格も強い。ロシア材は米材や国産材の供給不安から引合いが多く価格も強い。米材の原木不足は変わらず、価格も強いまま。南洋材原木の状況は厳しく価格も高値張り付きの状態。3 月の国内合板生産量 27.6 万 m^3 のうち針葉樹合板は 26.7 万 m^3 と依然高水準を維持している。出荷量は 25.2 万 m^3 となり、前月より約 1.4 万 m^3 増えた。在庫量は 11.7 万 m^3 、うち構造用合板は 10.1 万 m^3 と大幅な増加となった。国産針葉樹合板の 5 月販売価格は基本的には横ばい。長尺品は 20~30 円の値上げとなった。針葉樹合板は 3 月に引き続き 4 月も荷動きが停滞している。4 月は一部メーカーの決算で月末に安値が散見され、5 月以降全体への影響も懸念される。針葉樹合板 9mm の不足感は少なくなってきたが、ラワン合板 3mm とラワン構造用 9mm は全く物のない状況。3 月合板輸入量は前月より 3.4 万 m^3 減の 20.2 万 m^3 となり 2 カ月連続の減少。12mm 系の不

足感は無くなってきているが、今後輸入量の減少が予想され、需要動向によっては徐々に品不足に陥る可能性もある。マレーシアでは天候が安定しつつあり、原木確保も回復傾向にあるが、各工場の原木在庫は10日～2週間ほど、インドネシアでは天候が思うように回復せず、各工場は原木集荷に四苦八苦の状況である。針葉樹合板は大幅に荷動きが出て回復するとは考えにくく、輸入合板は仕入価格が上がっているが、荷動きが低調なため販売価格への転嫁もなかなか進まないものと見られる。

6. 構造用集成材

ラミナ入荷は順調で、国内集成材メーカーの在庫は増加傾向にある。WWラミナは250～255ユーロで前値据え置きまたは前回は2～3ユーロ高、RWラミナは270～275ユーロと前回は5～10ユーロ高となった。WW間柱は前回は15ユーロ高。3m材330～335ユーロ、4m材が340～345ユーロとなった。国内集成材メーカーのRW梁桁の販売、荷動きは落ち着いている。RW柱、WW柱・間柱の荷動きは鈍い。国内・輸入製品の在庫が多く、5月も荷動きは期待できない。国内メーカーはラミナ価格の高騰によりRW全般の値上げを目指しているが、需要低迷で苦戦を強いられている。輸入集成材の成約量は1、2月が極端に少なく、足元の入荷量は減少傾向にある。

7. 木材チップ

天候が回復し、チップ原木の入荷は順調で概ね例年並み。解体材の入荷も例年並みだが、製紙・バイオマス発電共に定期修理に入る工場が多く、余剰感がある。製紙用国内針葉樹チップの配合率が増加し、増集荷傾向が継続している。燃料用チップは製紙・バイオマス発電共に大型定期修理があり、在庫は削減、消費量は減少中。針葉樹原木・チップ共に一部で値上げの動きがある。今後チップ工場の人手不足が懸念される。

8. 市売問屋

国産材構造材の入荷は少ない。外材構造材は不足感が無く荷動きが悪い。国産材造作材は無垢材使用の現場が少なく荷動きが悪い。外材造作材もスプルー、ピーラーの使用現場が少ない。材木店では在庫する意欲が見られない状況が続いている。ゴールデンウィークのためか、販売に一服感が見られる。

9. 小売

4月に入り木材、建材とも一服感がある。品薄の物もあるが、荷動きが低調なため切迫感は薄い。パーティクルボードは依然としてタイトな状況がしばらく続くと見られ、必要量の確保に苦労。スギ、ヒノキ構造材は保合、米ツガ割物に一部品薄感が出ている。米ツガ防腐土台の急な値上がりに対し代替

材を考えるも地域的に米ツガを好む傾向にあり切り替えが進まない。連休後の仕事の出具合を期待するも先行き不透明。

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	→	→	→
北洋材	丸太	→	↘	↗
南洋材	丸太	↘	→	↘
	製材品	→		

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記の様に示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
↘	↗	↗	↗

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	→
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	→
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	→
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱 (KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	↗
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角 (KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	↗
			米マツ桁角 (GR) Std&Btr S4S 4・1/8” 13’	↗
			米ヒバ土台角 (GR) Std&Btr 4・13/16” 13’	↗
米マツ平角 (KD) 特等 10.5×24.0×4m	→			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	↗
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用	→
	製材品	産地価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
		東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトセラヤ 平割 (サバ州産)	↗
同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	→			
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ (KD) 30×40上級	↗
			アカマツ (KD) 16×40上級	↗
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC	→
			ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	→
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	→
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	→
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	→
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	↗
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	→
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	→